

(様式第10)

日医大病付(庶)第447号

令和 4年 10月 5日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人日本医科大学

理事長 坂本 篤裕

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒113-8602 東京都文京区千駄木一丁目1番5号
氏名	学校法人日本医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

日本医科大学付属病院

3 所在の場所

〒113-8603 東京都文京区千駄木一丁目1番5号
電話(03) 3822 - 2131

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
脳神経内科、消化器・肝臓内科、糖尿病・内分泌代謝内科							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
口腔科(周術期)							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	老年内科	2	漢方内科	3	リハビリテーション科	4	形成外科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	
27	0	0	0	850	877	(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	515	21.68	536.7	看護補助者	82	診療エックス線技師	0	
歯科医師	2	0.6	2.6	理学療法士	20	臨床 検査	臨床検査技師	96
薬剤師	80	0	80	作業療法士	6		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	7		その他	0
助産師	33	0	33	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	1098	2.14	1100.1	臨床工学士	43	医療社会事業従事者	11	
准看護師	1	0.93	1.9	栄養士	2	その他の技術員	8	
歯科衛生士	2	0	2	歯科技工士	0	事務職員	211	
管理栄養士	10	0	10	診療放射線技師	77	その他の職員	32	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	60	眼科専門医	10
外科専門医	45	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	5	放射線科専門医	18
小児科専門医	11	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	5	整形外科専門医	13
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	16
産婦人科専門医	17	救急科専門医	16
		合計	247

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (汲田 伸一郎) 任命年月日 平成 29 年 2 月 1 日

医療安全管理部部长、医療安全管理責任者、医療安全管理委員会委員長
 平成26年4月1日から平成29年1月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	709.3 人	0 人	709.3 人
1日当たり平均外来患者数	1675.1 人	20.5 人	1695.6 人
1日当たり平均調剤数		1508.4	剤
必要医師数		173.44	人
必要歯科医師数		0	人
必要薬剤師数		24	人
必要(准)看護師数		419.4	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	4618.17 ㎡	鉄筋コンクリート造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	96 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	192.558 ㎡	病床数	11 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	24.56 ㎡			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	496.42 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定装置		
細菌検査室	175.85 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	血液培養装置、一般細菌同定感受性分析装置、安全キャビネット等		
病理検査室	468.77 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等		
病理解剖室	80.1 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	感染対策解剖台、遺体冷蔵庫、肉眼撮影装置等		
研究室	1,503.34 ㎡	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	病理組織学標本作成装置、細胞培養装置、オートクレーブ等		
講義室	886.35 ㎡	鉄筋コンクリート造	室数	4 室	収容定員	620 人
図書室	1,424.65 ㎡	鉄筋コンクリート造	室数	6 室	蔵書数	60,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	99.2 %	逆紹介率	56.4 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		20,613 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,372 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,637 人
	D: 初診の患者の数		25,465 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	無	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	無	1
櫻田 晋太郎	弁護士		利害関係のない学識経験者	無	1
豊田 郁子	NPO法人「架け橋」		利害関係のない学識経験者	無	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
学校法人のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 心原性ショック患者に対して、小型ポンプを左心室内に留置し、順行性の血流を増加させ、循環維持と左室負荷を軽減する。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁植え込み術	取扱患者数	42
当該医療技術の概要 重度の大動脈弁狭窄症で、外科手術が困難とされていた方に対するカテーテルを用いた新しい治療法			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 薬剤抵抗性の左室内圧較差を認める閉塞性肥大型心筋症に対する経カテーテル的治療法。			
医療技術名	低心機能症例における難治性心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 電氣的除細動抵抗性の致死性心室性不整脈Electrical Storm状態における緊急・準緊急カテーテルアブレーション			
医療技術名	胃ESDにおける内視鏡的手縫い技術の応用	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 行っている。2022年6月に軟性持針器が市販され、本邦における手技の普及が見込まれる。			
医療技術名	ロボット支援人工関節置換術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 手術支援人工関節ロボットを使用し、人工膝関節・人工股関節置換術を行っており。 本支援ロボットを使用することで、従来より安全で正確に手術ができる			
医療技術名	機械的血栓回収術	取扱患者数	96
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期患者が主幹動脈閉塞を認めた場合に、血管内カテーテル治療にて血栓を回収する。			
医療技術名	ロボット補助下前立腺全摘除術	取扱患者数	65
当該医療技術の概要 手術支援ロボットを使用し、前立腺全摘除術を行っており。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	8
取扱い患者数の合計(人)	273

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	3	56 ベーチェット病	63
2 筋萎縮性側索硬化症	6	57 特発性拡張型心筋症	41
3 脊髄性筋萎縮症	1	58 肥大型心筋症	68
4 原発性側索硬化症		59 拘束型心筋症	
5 進行性核上性麻痺	5	60 再生不良性貧血	31
6 パーキンソン病	129	61 自己免疫性溶血性貧血	4
7 大脳皮質基底核変性症		62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	7
8 ハンチントン病		63 特発性血小板減少性紫斑病	73
9 神経有棘赤血球症		64 血栓性血小板減少性紫斑病	1
10 シャルコー・マリー・トウス病	4	65 原発性免疫不全症候群	9
11 重症筋無力症	71	66 IgA腎症	35
12 先天性筋無力症候群		67 多発性嚢胞腎	44
13 多発性硬化症/視神経脊髄炎	60	68 黄色靱帯骨化症	1
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多発性運動ニューロパチー	13	69 後縦靱帯骨化症	12
15 封入体筋炎	1	70 広範脊柱管狭窄症	5
16 クロウ・深瀬症候群		71 特発性大腿骨頭壊死症	21
17 多系統萎縮症	14	72 下垂体性ADH分泌異常症	21
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	73 下垂体性TSH分泌亢進症	4
19 ライソゾーム病	2	74 下垂体性PRL分泌亢進症	26
20 副腎白質ジストロフィー		75 クッシング病	20
21 ミトコンドリア病	2	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22 もやもや病	25	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	56
23 プリオン病		78 下垂体前葉機能低下症	193
24 亜急性硬化性全脳炎		79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25 進行性多巣性白質脳症		80 甲状腺ホルモン不応症	
26 HTLV-1関連脊髄症		81 先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27 特発性基底核石灰化症		82 先天性副腎低形成症	
28 全身性アミロイドーシス	13	83 アジソン病	
29 ウルリッヒ病		84 サルコイドーシス	79
30 遠位型ミオパチー		85 特発性間質性肺炎	46
31 ベスレムミオパチー	3	86 肺動脈性肺高血圧症	14
32 自己食空腔性ミオパチー		87 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33 シュワルツ・ヤンベル症候群		88 慢性血栓性肺高血圧症	5
34 神経線維腫症	31	89 リンパ管筋腫症	3
35 天疱瘡	11	90 網膜色素変性症	17
36 表皮水疱症		91 バッド・キアリ症候群	3
37 膿疱性乾癬(汎発型)	6	92 特発性門脈圧亢進症	4
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	36	93 原発性胆汁性肝硬変	36
39 中毒性表皮壊死症	6	94 原発性硬化性胆管炎	3
40 高安動脈炎	19	95 自己免疫性肝炎	28
41 巨細胞性動脈炎	9	96 クローン病	61
42 結節性多発動脈炎	6	97 潰瘍性大腸炎	177
43 顕微鏡的多発血管炎	22	98 好酸球性消化管疾患	3
44 多発血管炎性肉芽腫症	10	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46 悪性関節リウマチ	16	101 腸管神経節細胞減少症	
47 パージャール病	10	102 ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103 CFC症候群	
49 全身性エリテマトーデス	139	104 コステロ症候群	
50 皮膚筋炎/多発性筋炎	120	105 チャージ症候群	
51 全身性強皮症	192	106 クリオピリン関連周期熱症候群	
52 混合性結合組織病	36	107 全身型若年性特発性関節炎	20
53 シェーグレン症候群	49	108 TNF受容体関連周期熱症候群	
54 成人ステル病	10	109 非典型性溶血性尿毒症症候群	
55 再発性多発軟骨炎	4	110 ブラウ症候群	

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー		161 家族性良性慢性天疱瘡	3
112 マリネスコ・シェーグレン症候群		162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	17
113 筋ジストロフィー	8	163 特発性後天性全身性無汗症	
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164 眼皮皮膚白皮症	
115 遺伝性周期性四肢麻痺		165 肥厚性皮膚骨膜炎	
116 アトピー性脊髄炎		166 弾性線維性仮性黄色腫	
117 脊髄空洞症		167 マルフアン症候群	2
118 脊髄髄膜瘤		168 エーラス・ダンロス症候群	12
119 アイザックス症候群		169 メンケス病	
120 遺伝性ジストニア		170 オクシピタル・ホーン症候群	
121 神経フェリチン症		171 ウィルソン病	1
122 脳脊髄液へモジリン沈着症		172 低ホスファターゼ症	
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173 VATER症候群	
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174 那須・ハコラ病	
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175 ウィンバー症候群	
126 ベリー症候群		176 コフィン・ローリー症候群	
127 前頭側頭葉変性症		177 有馬症候群	
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎		178 モワット・ウィルソン症候群	
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症		179 ウィリアムズ症候群	
130 先天性無痛無汗症		180 ATR-X症候群	
131 アレキサンダー病		181 クルーゾン症候群	
132 先天性核上性球麻痺		182 アペール症候群	
133 メビウス症候群		183 ファイファー症候群	
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184 アントレー・ピクスラー症候群	
135 アイカルティ症候群		185 コフィン・シリス症候群	
136 片側巨脳症		186 ロスマンド・トムソン症候群	
137 限局性皮質異形成		187 歌舞伎症候群	
138 神経細胞移動異常症		188 多脾症候群	
139 先天性大脳白質形成不全症		189 無脾症候群	
140 ドラベ症候群		190 鰓耳腎症候群	
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191 ウェルナー症候群	1
142 ミオクロニー欠神てんかん		192 コケイン症候群	
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193 プラダー・ウィリ症候群	
144 レノックス・ガストー症候群		194 ソトス症候群	
145 ウエスト症候群		195 ヌーナン症候群	
146 大田原症候群		196 ヤング・シンブソン症候群	
147 早期ミオクロニー脳症		197 1p36欠失症候群	
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198 4p欠失症候群	
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199 5p欠失症候群	
150 環状20番染色体症候群		200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151 ラスムッセン脳炎		201 アンジェルマン症候群	
152 PCDH19関連症候群		202 スミス・マギニス症候群	
153 難治癲回部分発作重積型急性脳炎		203 22q11.2欠失症候群	
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204 エマヌエル症候群	
155 ランドウ・クレフナー症候群		205 脆弱X症候群関連疾患	
156 レット症候群		206 脆弱X症候群	
157 スタージ・ウェーバー症候群		207 総動脈幹遺残症	
158 結節性硬化症	2	208 修正大血管転位症	2
159 色素性乾皮症		209 完全大血管転位症	
160 先天性魚鱗癬		210 単心室症	1

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群		259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212 三尖弁閉鎖症	4	260 シトステロール血症	
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261 タンジール病	
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262 原発性高カイロミクロン血症	3
215 ファロー四徴症		263 脳腫黄色腫症	
216 両大血管右室起始症		264 無βリポタンパク血症	
217 エプスタイン病		265 脂肪萎縮症	
218 アルポート症候群		266 家族性地中海熱	2
219 ギャロウェイ・モフト症候群		267 高IgD症候群	
220 急速進行性糸球体腎炎	1	268 中條・西村症候群	
221 抗糸球体基底膜腎炎		269 化膿性無菌性関節炎・壞疽性膿皮症・アクネ症候群	
222 一次性ネフローゼ症候群	59	270 慢性再発性多発性骨髄炎	
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271 強直性脊椎炎	9
224 紫斑病性腎炎	7	272 進行性骨化性線維異形成症	
225 先天性腎性尿崩症		273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)		274 骨形成不全症	
227 オスラー病	3	275 タナトフォリック骨異形成症	
228 閉塞性細気管支炎		276 軟骨無形成症	
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277 リンパ管腫症/ゴーハム病	
230 肺胞低換気症候群		278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231 α1-アンチトリプシン欠乏症		279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232 カーニー複合		280 巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233 ウォルフラム症候群		281 クリップル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282 先天性赤血球形成異常性貧血	
235 副甲状腺機能低下症		283 後天性赤芽球病	1
236 偽性副甲状腺機能低下症		284 ダイアモンド・ブラックファン貧血	
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症		285 ファンconi貧血	
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286 遺伝性鉄芽球性貧血	
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287 エプスタイン症候群	
240 フェニルケトン尿症		288 自己免疫性出血病XIII	1
241 高チロシン血症1型		289 クロンカイト・カナダ症候群	1
242 高チロシン血症2型		290 非特異性多発性小腸潰瘍症	
243 高チロシン血症3型		291 ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	
244 メーブルシロップ尿症		292 総排泄腔外反症	
245 プロピオン酸血症		293 総排泄腔遺残	
246 メチルマロン酸血症		294 先天性横隔膜ヘルニア	
247 イソ吉草酸血症		295 乳幼児肝巨大血管腫	
248 グルコーストランスポーター1欠損症		296 胆道閉鎖症	1
249 グルタル酸血症1型		297 アラジール症候群	
250 グルタル酸血症2型		298 遺伝性膝炎	
251 尿素サイクル異常症		299 嚢胞性線維症	
252 リジン尿性蛋白不耐症		300 IgG4関連疾患	13
253 先天性葉酸吸収不全		301 黄斑ジストロフィー	
254 ポルフィリン症		302 レーベル遺伝性視神経症	
255 複合カルボキシラーゼ欠損症		303 アッシャー症候群	
256 筋型糖原病		304 若年発症型両側性感音聾	
257 肝型糖原病		305 遷発性内リンパ水腫	
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306 好酸球性副鼻腔炎	39

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病		319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308 進行性白質脳症		320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309 進行性ミオクローヌスてんかん		321 非ケトーシス型高グリシン血症	
310 先天異常症候群		322 β-ケトチオラーゼ欠損症	
311 先天性三尖弁狭窄症		323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312 先天性僧帽弁狭窄症		324 メチルグルタコン酸尿症	
313 先天性肺静脈狭窄症		325 遺伝性自己炎症疾患	
314 左肺動脈右肺動脈起始症		326 大理石骨病	
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症		327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316 カルニチン回路異常症		328 前眼部形成異常	
317 三頭酵素欠損症		329 無虹彩症	
318 シトリン欠損症		330 先天性気管狭窄症	
		331 特発性多中心性キャッスルマン病	10

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	331
合計患者数(人)	2582

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 救急医療管理加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 後発医薬品使用体制加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算
・ 診療録管理体制加算	・ 認知症ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 無菌治療室管理加算	・ 排尿自立支援加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料1
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 救命救急入院料4
・ 栄養サポートチーム加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 医療安全対策加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 感染防止対策加算	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 小児入院医療管理料
・ 感染防止対策加算対策向上加算、指導強化加算	・ 短期滞在手術等基本料1
・ 患者サポート体制充実加算	
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 外来栄養食事指導料	・ がん治療連携計画策定料
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ 排尿自立指導料
・ 糖尿病合併症管理料	・ ハイリスク妊産婦共同管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ がん患者指導管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ 外来緩和ケア管理料	・ こころの連携指導料
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 薬剤管理指導料
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 医療機器安全管理料1
・ 院内トリアージ実施料	・ 医療機器安全管理料2
・ 腎代替療法指導管理料	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 一般不妊治療管理料	・ 精神科退院時共同指導料

<ul style="list-style-type: none"> ・ 生殖補助医療管理料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合医療管理加算(歯科疾患管理料)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急搬送看護体制加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科治療時医療管理料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来放射線照射診療料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来腫瘍化学療法診療料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続血糖測定器加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ ニコチン依存症管理料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重症患者搬送加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期継続頭蓋内脳波検査
<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨髄微小残存病変量測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単線維筋電図
<ul style="list-style-type: none"> ・ 染色体検査の注2に規定する基準 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経学的検査
<ul style="list-style-type: none"> ・ BRCA1/2遺伝子検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補聴器適合検査
<ul style="list-style-type: none"> ・ がんゲノムプロファイリング検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロービジョン検査判断料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 先天性代謝異常症検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンタクトレンズ検査料
<ul style="list-style-type: none"> ・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児食物アレルギー負荷検査
<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内服・点滴誘発試験
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔細菌定量検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ センチネルリンパ節生検(片側)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔粘膜処置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経気管支凍結生検法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 検体検査管理加算(I) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像診断管理加算1

<ul style="list-style-type: none"> 検体検査管理加算(Ⅳ) 	<ul style="list-style-type: none"> 画像診断管理加算2
<ul style="list-style-type: none"> 国際標準検査管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> 画像診断管理加算3
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔画像診断
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> CT撮影及びMRI撮影
<ul style="list-style-type: none"> 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 	<ul style="list-style-type: none"> 冠動脈CT撮影加算
<ul style="list-style-type: none"> 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 血流予備量比コンピューター断層撮影
<ul style="list-style-type: none"> 胎児心エコー法 	<ul style="list-style-type: none"> 外傷全身CT加算
<ul style="list-style-type: none"> ヘッドアップティルト試験 	<ul style="list-style-type: none"> 心臓MRI撮影加算
<ul style="list-style-type: none"> 皮下連続式グルコース測定 	<ul style="list-style-type: none"> 乳房MRI撮影加算
<ul style="list-style-type: none"> 小児鎮静下MRI撮影加算 	<ul style="list-style-type: none"> エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
<ul style="list-style-type: none"> 頭部MRI撮影加算 	<ul style="list-style-type: none"> 人工腎臓
<ul style="list-style-type: none"> 全身MRI撮影加算 	<ul style="list-style-type: none"> 導入期加算
<ul style="list-style-type: none"> 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
<ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法加算1 	<ul style="list-style-type: none"> 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
<ul style="list-style-type: none"> 無菌製剤処理料 	<ul style="list-style-type: none"> 椎間版内酵素注入療法
<ul style="list-style-type: none"> 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 	<ul style="list-style-type: none"> 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内皮移植加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角結膜悪性腫瘍切除手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
<ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者リハビリテーション料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団コミュニケーション療法料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
<ul style="list-style-type: none"> ・ 療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急患者精神科継続支援料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻鏡手術)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療保護入院等診療料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 硬膜外自家血注入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔粘膜処置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ CAD/CAM冠 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

<ul style="list-style-type: none"> 皮膚移植術(死体) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
<ul style="list-style-type: none"> 不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの。)) 	<ul style="list-style-type: none"> 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 	<ul style="list-style-type: none"> 経カテーテル大動脈弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的僧帽弁クリップ術
<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡的逆流防止粘膜切除術 	<ul style="list-style-type: none"> 磁気ナビゲーション加算
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的中隔心筋焼灼術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)) 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)) 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡的小腸ポリープ切除術 	<ul style="list-style-type: none"> 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
<ul style="list-style-type: none"> 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
<ul style="list-style-type: none"> 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下仙骨腔固定術
<ul style="list-style-type: none"> ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 	<ul style="list-style-type: none"> 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)

<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 補助人工心臓
<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡下筋層切開術 	<ul style="list-style-type: none"> バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
<ul style="list-style-type: none"> 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下肝切除術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 輸血管理料 I
<ul style="list-style-type: none"> 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。) 	<ul style="list-style-type: none"> 輸血適正使用加算
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療専任加算
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 外来放射線治療加算
<ul style="list-style-type: none"> 生体部分肝移植術 	<ul style="list-style-type: none"> 高エネルギー放射線治療
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 	<ul style="list-style-type: none"> 1回線量増加加算
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下膵頭腫瘍切除術 	<ul style="list-style-type: none"> 強度変調放射線治療(IMRT)
<ul style="list-style-type: none"> 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 	<ul style="list-style-type: none"> 画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 体外照射呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 定位放射線治療

<ul style="list-style-type: none"> 膀胱水圧拡張術 	<ul style="list-style-type: none"> 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 	<ul style="list-style-type: none"> 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
<ul style="list-style-type: none"> 人工尿道括約筋植込・置換術 	<ul style="list-style-type: none"> 歯周組織再生誘導手術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 	<ul style="list-style-type: none"> レーザー機器加算の施設基準
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔管理料(Ⅰ)
<ul style="list-style-type: none"> 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠経部切開によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔管理料(Ⅱ)
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下子宮癒痕修復術 	<ul style="list-style-type: none"> 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
<ul style="list-style-type: none"> 体外式膜型人工肺管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 連携充実加算
<ul style="list-style-type: none"> 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術) 	<ul style="list-style-type: none"> 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> 画像誘導密封小線源治療加算
<ul style="list-style-type: none"> 悪性腫瘍病理組織標本加算 	<ul style="list-style-type: none"> 病理診断管理加算
<ul style="list-style-type: none"> クラウン・ブリッジ維持管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(切除が困難で進行性のもの又は治療後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	・腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術 子宮体がん(ステージがIA期であってグレード3もしくは特殊型(漿液<しょうえき>性腺がん、明<めい>細胞腺がん、がん肉腫等)のものまたはステージがIB期もしくはII期と疑われるものに限る。)
・流産検体を用いた染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年間48回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	14
	剖検率(%)	3.00%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己免疫性自律神経節障害の「多様性」に関する多角的研究	中根 俊成	脳神経内科	4,550,000	補 委	文部科学省
もやもや病類縁頭蓋内血管狭窄の網羅的遺伝子解析による発現機序の同定	村井 保夫	脳神経外科	780,000	補 委	文部科学省
新たな早産予防戦略を指向した、子宮頸管における無菌性炎症とその制御機構の解明	桑原 慶充	女性診療科・産科	1,170,000	補 委	文部科学省
悪性黒色腫特異的な新規腫瘍マーカーの臨床応用	帆足 俊彦	皮膚科	910,000	補 委	文部科学省
タウ蛋白および5-HT1B受容体PETによるアミロイド関連うつ病の病態解明研究	舘野 周	精神神経科	1,430,000	補 委	文部科学省
エピジェネティクスを用いた全ゲノム解析による遺伝性不整脈疾患の新規発症機序の解明	村田 広茂	循環器内科	650,000	補 委	文部科学省
肺癌における血清エクソソーム非コードRNAを用いたがん免疫療法の効果予測	清家 正博	呼吸器内科	1,300,000	補 委	文部科学省
強皮症における石灰沈着症の分子機構の解明	白井 悠一郎	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補 委	文部科学省
血中腫瘍細胞に対する脾臓の役割の解明	吉田 寛	消化器外科	910,000	補 委	文部科学省
外側からのマクロファージ浸潤により血管再生を促進する吸収性動脈グラフトの開発	宮地 秀樹	心臓血管集中治療科	1,300,000	補 委	文部科学省
新しい骨軟部組織損傷モデルの妥当性の評価及び、外傷後臓器障害発生機序の検討	塚本 剛志	救命救急科	1,300,000	補 委	文部科学省
蘇生後脳症に対する神経幹細胞移植を用いた再生治療の確立と効率化	阪本 太吾	救命救急科	1,690,000	補 委	文部科学省
重症頭部外傷に対する新規神経栄養因子を用いた再生治療の効率化	佐々木 和馬	救命救急科	1,885,000	補 委	文部科学省
脳虚血後肺炎に対する歯髄由来幹細胞治療：肺内免疫に注目し、治療応用の可能性を探る	須田 智	脳卒中集中治療科	910,000	補 委	文部科学省
無菌性炎症からみた子宮内膜症発症メカニズムと新規治療法の開発	池田 真利子	女性診療科・産科	1,430,000	補 委	文部科学省
舌下免疫療法によるマスト細胞脱顆粒抑制機構	後藤 穰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補 委	文部科学省
振動圧刺激による頭頸部がん細胞のATP放出メカニズムの解明	高田 弘弥	形成外科・再建外科・美容外科	910,000	補 委	文部科学省
振動圧刺激による頭頸部がん細胞のATP放出メカニズムの解明	坂寄 健	精神神経科	1,170,000	補 委	文部科学省
振動圧刺激による頭頸部がん細胞のATP放出メカニズムの解明	上田 達夫	放射線科	1,560,000	補 委	文部科学省
ボルテゾミブを用いた、Rhoを介した肺血管透過性亢進のメカニズムと治療法の解明	柏田 建	呼吸器内科	910,000	補 委	文部科学省
DNA修復機構を標的とした難治性急性骨髄性白血病治療の開発	脇田 知志	血液内科	780,000	補 委	文部科学省
閉塞性大腸癌における自己拡張型金属ステントの腫瘍学的安全性の評価	高橋 吾郎	消化器外科	1,300,000	補 委	文部科学省
内耳障害における栄養因子を中心とする新しい分子メカニズムについての研究	鈴木 宏隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
PPAR α アゴニスト点眼剤を用いた血管新生緑内障への治療応用の試み	有馬 武志	眼科	1,170,000	補 委	文部科学省
体内微生物の脳動脈瘤の発生・破裂への影響の解明と新しい予防医療の開発	森田 明夫	脳神経外科	6,240,000	補 委	文部科学省
PPI抵抗性逆流性食道炎を含めた逆流性食道炎発症に及ぼす唾液分泌の影響	岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	1,170,000	補 委	文部科学省
肺癌の発症・転移に関わる肺Microbiomeの同定と免疫療法との関連性の解明	宮永 晃彦	化学療法科	1,170,000	補 委	文部科学省
多様なリンパ球増殖性肺病変の局所リンパ球のプロファイリングとバイオマーカー開発	寺崎 泰弘	病理部	1,430,000	補 委	文部科学省
内皮細胞のheterogeneityに着目した糸球体毛細血管網の維持機構の解明	三井 亜希子	腎臓内科	1,040,000	補 委	文部科学省
シングルセル解析による有棘細胞がんの腫瘍内不均一性の起源の探索	佐伯 秀久	皮膚科	1,170,000	補 委	文部科学省
全身性強皮症に伴う心筋病変の形成における心筋指向性単球の解析	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	1,170,000	補 委	文部科学省
甲状腺微小乳頭癌の個別的管理のためのバイオマーカー探索と患者報告アウトカム研究	杉谷 巖	内分泌外科	1,300,000	補 委	文部科学省
尿中循環DNAを用いて化学療法の効果予測や根治術後の再発リスク判定が行えるか？	太田 竜	消化器外科	1,560,000	補 委	文部科学省
Liquid biopsy技術を加えた新たな胃癌進行度分類診断の研究	金沢 義一	消化器外科	1,430,000	補 委	文部科学省
血中の腫瘍由来関連核酸検出による消化管間質腫瘍の新規治療戦略	萩原 信敏	消化器外科	1,040,000	補 委	文部科学省
小児拡張型心筋症に対する肺動脈絞扼術の有効性の検討	佐々木 孝	心臓血管外科	910,000	補 委	文部科学省
理想的な血管再生を誘導する多層性動脈グラフトの創製	太良 修平	循環器内科	1,170,000	補 委	文部科学省
睡眠障害は疼痛を増悪させるか？睡眠が疼痛制御に及ぼす分子機構解明と治療介入の検討	間瀬 大司	外科系集中治療科	1,690,000	補 委	文部科学省
心停止後意識障害における低侵襲的細胞医薬治療の有効性評価：患者社会復帰を目指して	横堀 将司	救命救急科	1,300,000	補 委	文部科学省
出血性ショック初期輸液としてのヘモグロビン-アルブミンクラスターの蘇生効果	増野 智彦	救命救急科	1,300,000	補 委	文部科学省
新規流体チップデバイスによる尿路生殖器癌の循環腫瘍細胞捕捉に関する研究	近藤 幸尋	泌尿器科	1,170,000	補 委	文部科学省
子宮肉腫におけるターゲット因子抑制とその応用	寺崎 美佳	病理診断科	1,560,000	補 委	文部科学省
PRMT5による新たなケロイド幹細胞制御機構の解明と新治療薬開発への挑戦	土佐 眞美子	形成外科・再建外科・美容外科	1,300,000	補 委	文部科学省
ProteomeとLipidomeを組み合わせたアミロイド沈着機序の解明	堂本 裕加子	病理診断科	1,690,000	補 委	文部科学省
甲状腺細胞診検体を用いた濾胞癌におけるゲノムワイド分子診断マーカーの探索	軸菌 智雄	内分泌外科	1,300,000	補 委	文部科学省
高解像度インピーダンスメトリーを用いた嚥下評価と食道刺激による訓練法の開発	青柳 陽一郎	リハビリテーション科	1,170,000	補 委	文部科学省
PETを用いたうつ病のECT後の効果維持に関する予測因子の解明	野上 毅	精神神経科	1,430,000	補 委	文部科学省
乳房デジタルトモシンセシスによる新しい乳癌画像診断法の研究	谷 瞳	放射線科	650,000	補 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
逐次近似法を用いて上部消化管造影検査での早期胃癌の描出能を向上する	城 正樹	放射線科	130,000	補 委	文部科学省
アポトーシス調整因子を標的とした非小細胞肺癌の新規治療法の開発～根治を目指して～	中道 真仁	呼吸器内科	520,000	補 委	文部科学省
悪性胸膜中皮腫における新規治療戦略の探索	中山 幸治	呼吸器内科	520,000	補 委	文部科学省
慢性腎臓病患者の血管合併症に対する新規治療薬の検証	谷 崇	腎臓内科	1,300,000	補 委	文部科学省
人工知能と集中治療患者情報システムを用いた革新的な人工呼吸器離脱戦略	五十嵐 豊	救命救急科	1,170,000	補 委	文部科学省
新たな適応による出血性ショックに対するキサントニンオキシダーゼ阻害薬治療の確立	瀧口 徹	救命救急科	1,560,000	補 委	文部科学省
日本人に向けた嗅覚トレーニングの開発	吉野 綾穂	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	520,000	補 委	文部科学省
VISTA分子の角膜移植・免疫特権への寄与	國重 智之	眼科	1,950,000	補 委	文部科学省
PPARを用いた緑内障における線維柱帯切除術後線維化抑制	白鳥 宙	眼科	1,430,000	補 委	文部科学省
急性期脳卒中患者に対する栄養療法の有用性に関する研究	鈴木 健太郎	脳卒中集中治療科	780,000	補 委	文部科学省
くも膜下出血はなぜ日本人に多いか？：脳血管障害をきたす体内細菌叢の国際間比較研究	森田 明夫	脳神経外科	5,980,000	補 委	文部科学省
新規ヒストン修飾解析手法を用いた白色脂肪細胞分化過程のエピゲノム変化の解析	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	1,690,000	補 委	文部科学省
本邦における脳梗塞関連遺伝子座と臨床的特徴に関する検討	下山 隆	脳神経内科	2,340,000	補 委	文部科学省
川崎病冠動脈瘤に対する脂肪由来間葉系幹細胞(ADSC)を用いた細胞療法の開発	植田 高弘	小児科	1,170,000	補 委	文部科学省
成人川崎病既往者の早期動脈硬化発症リスクの解明	深澤 隆治	小児科	1,820,000	補 委	文部科学省
人工知能を用いた肥大型心筋症患者の収縮能低下および拡張相移行への予測	高野 仁司	循環器内科	1,300,000	補 委	文部科学省
エキシマレーザーの色素細胞活性化機序の解明	船坂 陽子	皮膚科	2,470,000	補 委	文部科学省
microRNAを介した全身麻酔作用機序の検討	石川 真士	麻酔科・ペインクリニック	1,300,000	補 委	文部科学省
麻酔薬による癌細胞生理への影響の検討	岩崎 雅江	外科系集中治療科	1,690,000	補 委	文部科学省
体外式膜型人工肺の出血をおこさない新規抗凝固戦略:XII因子阻害薬とコーティング	梅井 菜央	外科系集中治療科	1,950,000	補 委	文部科学省
南海トラフ地震における災害医療対応シミュレーション・システムの開発	布施 明	救命救急科	1,690,000	補 委	文部科学省
分子生体制御学的・行動解析学的アプローチによる内耳性難聴の発症メカニズムの解明	松延 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,690,000	補 委	文部科学省
硝子体手術に伴う網膜酸化ストレス傷害に対する水素含有眼内灌流液の効果	高橋 浩	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補 委	文部科学省
心筋症における電気解剖学的マッピングを用いた心筋生検についての検討	林 洋史	循環器内科	2,340,000	補 委	文部科学省
ヒト正常細胞におけるEML4-ALKの生物学的役割の検討	松本 優	呼吸器内科	1,430,000	補 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
網羅的遺伝子解析を用いた強皮症特異的単球 master regulatorの同定	井関 ゆう子	リウマチ・膠原病内科	2,600,000	補委 文部科学省
セボフルランの敗血症性肝腎障害に対する保護効果、microRNA発現変化の証明	森田 智教	麻酔科・ペインクリニック	1,170,000	補委 文部科学省
血中DNA分解酵素活性を用いた絞扼性腸閉塞の診断	岩井 拓磨	消化器外科	910,000	補委 文部科学省
細胞外miR-21を標的とした変形性関節症に対する疾患修飾性鎮痛薬の検討	星川 直哉	整形外科・リウマチ外科	1,430,000	補委 文部科学省
Whole-clinical dataに基づくホワイトボックス的な医療AIの検証	赤塚 純	泌尿器科	1,560,000	補委 文部科学省
トランスレーショナル・リサーチってなんだ!?:命を救う橋渡し研究を知ろう	横堀 将司	救命救急科	490,000	補委 文部科学省
『新しい生活様式』に即した環境因子の変化に伴う熱中症発症因子の検討	横堀 将司	救命救急科	10,010,000	補委 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	伊藤 保彦	小児科	360,000	補委 厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	400,000	補委 厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	800,000	補委 厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	400,000	補委 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	360,000	補委 厚生労働省
アレルギー疾患の多様性、生活実態を把握するための疫学研究	後藤 穰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	200,000	補委 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	360,000	補委 厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	田原 重志	脳神経外科	1,000,000	補委 厚生労働省
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	山口 博樹	血液内科	1,000,000	補委 厚生労働省
脳死下、心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究	横堀 将司	救命救急科	800,000	補委 厚生労働省
障がい者の熱中症発生の実態に基づいた予防の支援方法に関する研究	横堀 将司	救命救急科	2,800,000	補委 厚生労働省
移行期JIAを中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤棟の適正仕様に資する研究	檜崎 秀彦	小児科	160,000	補委 厚生労働省
周期的圧刺激によって制御される血管新生のシグナル伝達機構の解明 -非接触超音波を用いた創傷治療法の開発を目指して-	小川 令	形成外科・再建外科・美容外科	77,121,849	補委 日本医療研究開発機構
統合レジストリによる多発性筋炎/皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	13,000,000	補委 日本医療研究開発機構
末梢型肺がんに対する光線力学的治療に関する医師主導治験	白田 実男	呼吸器外科	58,853,470	補委 日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	650,000	補委 日本医療研究開発機構
致死性不整脈の病因解明のための日本国内多施設登録	村田 広茂	循環器内科	650,000	補委 日本医療研究開発機構
重症化ゼロを目指したスギ・ヒノキ花粉症に対するアレルギー免疫療法の開発	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,900,000	補委 日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児特有の脳腫瘍に対する標準治療確立のための全国多施設共同研究	前林 勝也	放射線治療科	130,000	補 委 日本医療研究開発機構
ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エピゲノム発がんリスク診断の実用化	貝瀬 満	内視鏡センター	650,000	補 委 日本医療研究開発機構
多施設連携プラットフォーム(MABB)を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立	舘野 周	精神神経科	6,110,000	補 委 日本医療研究開発機構
非 HIV 免疫再構築症候群の疾患概念確立とバイオマーカーの研究開発	久保田 馨	化学療法科	1,300,000	補 委 日本医療研究開発機構
肥大型心筋症患者における診療の実態調査および突然死/拡張相への移行に関する新規予測プログラムの開発とその検証	高野 仁司	循環器内科	650,000	補 委 日本医療研究開発機構
川崎病に伴う冠動脈後遺症の成人期の予後と移行医療の実態に関する研究	深澤 隆治	小児科	390,000	補 委 日本医療研究開発機構
一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する標準化学療法の確立を目指した第2相臨床試験 分担研究開発課題名「TAMIに対する標準的治療法確立」	植田 高弘	小児科	130,000	補 委 日本医療研究開発機構
食道アカラシアの前駆状態とされる食道胃接合部通過障害に対するアコチアミドの有効性と安全性を検討する第II相医師主導治験	岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	4,824,300	補 委 日本医療研究開発機構
コンテンツ総合監修及び管理運用制度・指針の設計・コンサルティング業務	横堀 将司	救命救急科	10,652,400	補 委 日本医療研究開発機構
神経線維腫症II型に対するペバシズマブの有効性及び安全性を検討する多施設共同二重盲検無作為化比較治験	森田 明夫	脳神経外科	2,600,000	補 委 日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	650,000	補 委 日本医療研究開発機構
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する疫学調査等の推進に関する研究	山口 博樹	血液内科	650,000	補 委 日本医療研究開発機構
利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	山口 博樹	血液内科	2,300,000	補 委 日本医療研究開発機構

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
1	Ota Yuko, Kuwana Masataka.	リウマチ・膠原病内科	Updates on genetics in systemic sclerosis	Inflamm Regen	2021年6月	第41巻 17	Review
2	Kuwana Masataka, Gil-Vila Albert, Selva-O'Callaghan Albert.	リウマチ・膠原病内科	Role of autoantibodies in the diagnosis and prognosis of interstitial lung disease in autoimmune rheumatic disorders	Ther Adv Musculoskelet Dis.	2021年7月	第13巻 P1-7	Review
3	Shirai Yuichiro, Fukue Ryosuke, Kaneko Yuko, et al.	リウマチ・膠原病内科	Clinical Relevance of the Serial Measurement of Krebs von den Lungen-6 Levels in Patients with Systemic Sclerosis-Associated Interstitial Lung Disease	Diagnostics (Basel).	2021年10月	第11巻 2007	Original Article
4	Gono Takahisa, Okazaki Yuka, Kuwana Masataka.	リウマチ・膠原病内科	Antiviral proinflammatory phenotype of monocytes in anti-MDA5 antibody-associated interstitial lung disease	Rheumatology (Oxford)	2022年2月	第61巻 P806-814	Original Article
5	Uchiyama Sunsuke, Takanashi Satoshi, Takeno Mitsuhiro, et al.	リウマチ・膠原病内科	Should we reconsider the definition of elderly-onset rheumatoid arthritis in an ageing society?	Mod Rheumatol.	2022年2月	第32巻 P323-329	Original Article
6	Kuwana Masataka, Allanore Yannick, Denton Christopher P, et al.	リウマチ・膠原病内科	Nintedanib in Patients With Systemic Sclerosis-Associated Interstitial Lung Disease: Subgroup Analyses by Autoantibody Status and Modified Rodnan Skin Thickness Score	Arthritis Rheumatol.	2022年3月	第74巻 P518-526	Original Article
7	Koji Sakamoto	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Trapezius muscle branch of the spinal accessory nerve without penetrating the sternocleidomastoid muscle as a pitfall in neck dissection: prevalence in a Japanese institution and a protocol for the prevention of iatrogenic injury	Acta Otolaryngol	2021年8月	141(8):825-82	Original Article
8	Hitomi Yazu	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Adaptation and validation of the main concept analysis of spoken discourse by native Japanese adults	Clin Linguist Phon	2022年1月	36(1):17-33.	Original Article
9	Ayaho Yoshino	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Validation study of a novel approach for assessment of retronasal olfactory function with combination of odor thresholds and identification	Eur Arch Otorhinolaryngol.	2021年10月	278(10):3847-3856	Original Article
10	Nakamoto Kenji, Shiratori Naka, Nishio Yusuke, et al	眼科	A patient with primary open-angle glaucoma with re-elevated nocturnal sitting intraocular pressure after restarting medical therapy due to a bleb failure	J Nippon Med Sch	2021年10月	2021年88巻5号	Case report
11	Sakayori Takeshi, Tateno Amane, Arakawa Ryosuke, et al.	精神神経科	Evaluation of dopamine D3 receptor occupancy by blonanserin using [¹¹ C]-(+)-PHNO in schizophrenia patients.	Psychopharmacology (Berl)	2021年5月	第238巻 P1343-1350	Original Article
12	Hiroichi Sonoda, Takeshi Yamada, Akihisa Matsuda	消化器外科	Elevated serum carcinoembryonic antigen level after curative surgery is a prognostic biomarker of stage II-III colorectal cancer	Eur J Surg Oncol.	2021年6月	第47巻11号 P2880-2887	Original Article
13	Ryu Matsunaga, Yoshikazu Kanazawa, Kunihiko Matsuno他	消化器外科	An advanced case of gastric histiocytic sarcoma treated with chemotherapy and gastrectomy: a case report and review of literature	Clin J Gastroenterol.	2021年6月	第14巻4号 P1053-1059	Review
14	Ryo Ohta, Takeshi Yamada, Hiroichi Sonoda他	消化器外科	Detection of KRAS mutations in circulating tumour DNA from plasma and urine of patients with colorectal cancer	Eur J Surg Oncol.	2021年7月	第47巻12号 P3151-3156	Original Article
15	Katsuyoshi Ankoh, Seiichi Shinji, Takeshi Yamada他	消化器外科	A rapidly growing small intestinal metastasis from lung cancer	J Nippon Med Sch.	2021年9月	第14巻2号 P232-240	Original Article
16	Shimizu Tetsuya, Yoshioka Masato, Kaneya Yohei他	消化器外科	Management of Simple Hepatic Cyst	J Nippon Med Sch.	2021年9月	第88巻3号 P156-162	Original Article
17	Hiroichi Sonoda, Takeshi Yamada, Keiji Hirata他	消化器外科	A Trial Protocol to Investigate the Incidence of Postoperative Bowel Obstruction after Laparoscopic Colorectal Cancer Surgery Using an Absorbable Adhesion Barrier Material (INTERCEED®) (Balsam CEED Study): A Prospective, Multicenter, Observational Study	J Anus Rectum Colon.	2021年10月	第5巻4号 P414-418	Trial Protocol
18	Kohki Takeda, Akihisa Matsuda, Kaneya Yohei他	消化器外科	Useful preoperative simulation for laparoscopic surgery of rectal cancer with kyphosis	J Nippon Med Sch.	2021年11月	早期公開(オンライン)	Case report
19	Matsuda N, Iida S, Ogino Y, et al	総合診療科	Bone Marrow Sarcoidosis with Pancytopenia and Renal Failure Presenting as Fever of Unknown Origin: The Pivotal Role of 18F-FDG PET/CT in Lesion Detection	J Nippon Med Sch.	2021年5月	第88巻第2号 P145-148	Case report
20	Ohara T, Murata H, Yodogawa K, et al	総合診療科	Long-Term Electrocardiographic Follow-Up of a Patient with Light-Chain Cardiac Amyloidosis	J Nippon Med Sch.	2022年3月	第89巻第1号 P119-125	Original Article
21	Masaomi Sen; Ryuta nagaoka; Iwao Sugitani et. Al.	内分泌外科	Non-functioning oxyphilic parathyroid carcinoma: a case report	Surgical Case Reports	2021年5月	第7巻 P119	Case report
22	Ryuta Nagaoka, Tomoo Jikuzono, Iwao Sugitani et. Al	内分泌外科	Multifocality and progression of papillary thyroid microcarcinoma during active surveillance	World J Surg	2021年9月	第45巻 P2769-2776	Original Article
23	Marie Saitou; Ryuta Nagaoka, Iwao Sugitani et. Al.	内分泌外科	A congenital hemophilia A diagnosed with postoperative hemorrhage after thyroidectomy for papillary thyroid carcinoma: A case report	Surgical Case Reports	2021年8月	第7巻 P189	Case report
24	TOMOO JIKUZONO, IWAO SUGITANI et. Al.	内分泌外科	VsN, a Reliability-index of Shear-wave Measurement in Sonoelastography, Is Useful for the Diagnosis of Thyroid Tumor Malignancy	in vivo	2022年1月	第36巻 P264-273	Original Article

25	Masato Yanagi	泌尿器科	Factors associated with prolonged surgical duration of laparoscopic radical nephrectomy using retroperitoneal approach by non-expert surgeons	J Nippon Med Sch	2021年5月	88, 109-112	Original Article
26	Masato Yanagi	泌尿器科	Massive hemorrhage during laparoscopic radical nephrectomy using the retroperitoneal approach	J Nippon Med Sch	2021年8月	88, 367-369	Case report
27	Masato Yanagi	泌尿器科	Failure of Hem-o-lok clips used on a renal artery after laparoscopic renal surgery	J Med Invest	2021年8月	68, 393-395	Case report
28	Masato Yanagi	泌尿器科	Risk factor analysis of intravesical recurrence after retroperitoneoscopic nephroureterectomy for upper tract urothelial carcinoma	BMC urology	2021年12月	21(1):167. doi: 10.1186/s12894-021-00932-2.	Original Article
29	Yuki Endo	泌尿器科	A Case of Well Leg Compartment Syndrome After Robot-assisted Laparoscopic Prostatectomy : With Review	J Med Invest	2022年3月	69, 145-147	Case report
30	Jun Akatsuka	泌尿器科	A data-driven ultrasound approach discriminates pathological high grade prostate cancer	Sci Rep	2022年1月	12(860)	Original Article
31	Jun Akatsuka	泌尿器科	Outcomes of Starting Low-dose Pazopanib in Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma Who Do Not Meet Eligibility Criteria for Clinical Trials	Urological Science	2021年9月	32 104-110	Original Article
32	Jun Akatsuka	泌尿器科	Nephrostomy catheter entering the right renal vein during an exchange procedure: A case report and literature review.	IJU case reports	2021年5月	4(3) 168-171	Case report
33	Noma S, Miyachi H, Fukuzumi I,	心臓血管集中治療科	Adjunctive Catheter-Directed Thrombolysis during Primary PCI for ST-Segment Elevation Myocardial Infarction with High Thrombus Burden	J Clin Med.	2022年1月	11(1):262.	Original Article
34	Watanabe Y, Miyachi H, Mozawa K	心臓血管集中治療科	Impact of the COVID-19 Pandemic on ST-elevation Myocardial Infarction from a Single-center Experience in Tokyo	Intern Med.	2021年12月	60(23):3693-3700.	Original Article
35	Shiomura R, Tara S, Ito N, Watanabe M,	心臓血管集中治療科	Hemodynamic Collapse Caused by Cardiac Dysfunction and Abdominal Compartment Syndrome in a Patient with Mitochondrial Disease	Intern Med.	2022年2月	61(4):489-493	Case report
36	Matsuda J, Takano H, Morooka M	心臓血管集中治療科	Relationship Between Procedural Right Bundle Branch Block and 1-Year Outcome After Alcohol Septal Ablation for Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy - A Retrospective Study	Circ J.	2021年8月	85(9):1481-1491.	Original Article
37	Kadooka K, Miyachi H, Kimura T	心臓血管集中治療科	Non-cardiovascular disorders in a contemporary cardiovascular intensive care unit in Japan	J Cardiol.	2021年8月	78(2):166-17	Original Article
38	Sasamoto N, Akutsu K, Yamamoto T,	心臓血管集中治療科	Characteristics of Inter-Arm Difference in Blood Pressure in Acute Aortic Dissection	J Nippon Med Sch.	2021年11月	88(5):467-474.	Original Article
39	Sakai S, Tara S, Yamamoto T,	心臓血管集中治療科	Gastrointestinal bleeding increases the risk of subsequent cardiovascular events in patients with acute cardiovascular diseases requiring intensive care	Heart Vessels	2021年9月	36(9):1327-1335	Original Article
40	Tanaka, A., Sekine, T., Ter Voert, E. E. G. W., et al.	放射線科	Reproducibility of Standardized Uptake Values Including Volume Metrics Between TOF-PET-MR and TOF-PET-CT.	Frontiers of Medicine,	2022年9月	9, 796085.	Original Article
41	Murakami Ryusuke, Tani H, Kumita S et al	放射線科	Diagnostic performance of digital breast tomosynthesis for predicting response to neoadjuvant systemic therapy in breast cancer patients: A comparison with magnetic resonance imaging, ultrasound, and full-field digital mammography.	Acta Radiol Open.	2021年10月	(12), P1-8	Original Article
42	Sayaka Shirai, Tatsuo Ueda, Fumie Sugihara et al	放射線科	Transileocolic endovascular treatment by a hybrid approach for severe acute portal vein thrombosis with bowel necrosis: Two case reports	World journal of clinical cases	2022年2月	10(6):1876-1882	Original Article
43	Tatsuo Ueda1) · Satoru Murata2) · Hiroyuki Tajima3) et.al	放射線科	Endovascular treatment with Viabahn stent grafts for arterial injury and bleeding at the visceral arteries: initial and midterm results	Japanese Journal of Radiology	2022年	40(2): 202-209.	Original Article
44	Tatsuo Ueda1), Satoru Murata2), Hiroyuki Tajima3) et al	放射線科	Emergency endovascular treatment using a Viabahn stent graft for upper and lower extremity arterial bleeding: a retrospective study	CVIR Endovascular	44287	4:83	Original Article
45	Ueda T1, Hayashi H1, Ando T1 et.al	放射線科	Computed Tomography Attenuation Values of the High-Attenuating Crescent Sign Can Discriminate Between Rupture, Impending Rupture, and Non-Rupture of Aortic Aneurysms	Circulation Journal	2021年11月	85(12):2184-2190	Original Article
46	Ueda T1, Tajima H2, Murata S3, et.al	放射線科	A Comparison of Outcomes Based on Vessel Type (Native Artery vs. Bypass Graft) and Artery Location (Below-Knee Artery vs. Non-Below-Knee Artery) Using a Combination of Multiple Endovascular Techniques for Acute Lower Limb Ischemia	nnals of Vascular Surgery	2021年8月	75:205-216	Original Article
47	Saito H1, Murata S2, Sugihara F1 et al.	放射線科	Successful embolization of an intrahepatic portosystemic shunt using balloon-occluded retrograde transvenous obliteration: A case report	World Journal of Clinical Cases	2022年2月	26;10(6):2023-2029	Original Article
48	Sayaka Shirai, Tatsuo Ueda, Fumie Sugihara, et al	救命救急科	Transileocolic endovascular treatment by a hybrid approach for severe acute portal vein thrombosis with bowel necrosis: Two case reports.	World journal of clinical cases	2022年2月	10(6) : 1876-1882	Case report
49	Ryuta Nakae, Tetsuro Sekine, Takashi Tagami, et al	救命救急科	Rapidly progressive brain atrophy in septic ICU patients: a retrospective descriptive study using semiautomatic CT volumetry.	Critical care (London, England)	2021年11月	25(1):411-411	Original Article
50	Ryuta Nakae, Yu Fujiki, Yasuhiro Takayama,et al	救命救急科	Time course of coagulation and fibrinolytic parameters in pediatric traumatic brain injury.	Journal of neurosurgery. Pediatrics	2021年8月	28(5): 526-532	Original Article
51	Yutaka Igarashi, Narumi Matsumoto, Tatsuhiko Kubo, et al	救命救急科	Prevalence and Characteristics of Earthquake-Related Head Injuries: A Systematic Review.	Disaster medicine and public health preparedness	2021年5月	1-6	Review

52	Tatsuo Ueda, Hiroyuki Tajima, Satoru Murata, et al	救命救急科	A comparison of outcomes based on vessel type (Native artery vs. bypass graft) and artery location (Below-knee artery vs. non-below-knee artery) using a combination of multiple endovascular techniques for acute lower limb ischemia.	Annals of vascular surgery	2021年4月	75:205-216	Original Article
53	Toru Takiguchi, Hiroyuki Ohbe, Mikio Nakajima, et al	救命救急科	Intermittent versus continuous neuromuscular blockade during target temperature management after cardiac arrest: A nationwide observational study.	Journal of critical care	2021年4月	62:276-282	Original Article
54	Takegahara K, Usuda J, Inoue T 他	呼吸器外科	Antiangiogenic gene Klotho regulates epithelial-mesenchymal transition and increases sensitivity to pemetrexed by inducing lipocalin-2 expression	ONCOLOGY LETTERS	44317	第21巻 P678-683	Original Article
55	Hirai K, Usuda J	呼吸器外科	Indication of uniportal video-assisted thoracoscopic surgery Indication of uniportal	video-assisted thoracoscopic surgery	44531	第10巻 P21037	Original Article
56	Sonokawa T, Matsumoto M, Takegahara K 他	呼吸器外科	Usefulness of simultaneous type image-enhanced endoscope system in photodynamic therapy for centrally located lung cancer Photodiagnosis and Photodynamic Therapy	Photodiagnosis and Photodynamic Therapy	44440	35巻 P102345	Original Article
57	He J, Liang H, Wang W, Akopov A 他	呼吸器外科	Tubeless video-assisted thoracic surgery for pulmonary ground-glass nodules	Translational Lung Cancer Research2021	2021年10月	10巻 P3503-3519	Case report
58	Sonokawa T, Enomoto Y, Kunugi S 他	呼吸器外科	A Case of Pulmonary Adenofibroma Treated by Thoracoscopic Resection	Journal of Nippon Medical School	44531	88巻 P564-568	Original Article
59	Majima T, Oshima Y	整形外科・リウマチ外科	Venous thromboembolism in major orthopedic surgery.	J Nippon Med Sch	44287	第88巻(4) P268-272	Original Article
60	Tomori Y, Nanno M, Kentaro S, Majima T	整形外科・リウマチ外科	Novel Surgical Procedure for Half Palmaris Longus Transfer during Opponensplasty of the Thumb for Patients with Carpal Tunnel Syndrome: A Technical Note.	J Nippon Med Sch	44287	第88巻(2) P149-153	Original Article
61	Okubo A, Yotsumoto T, Watanabe N, Kajikawa T, Nakajima S, Oshima Y, Iizawa N, Majima T	整形外科・リウマチ外科	Comparison of three suture-bridge techniques for large or massive rotator cuff tear with delamination	SICOT J	44409	第7巻(41) P6	Original Article
62	Tomori Y, Nanno M, Sonoki K, Majima T	整形外科・リウマチ外科	Surgical outcome of coronal shear fracture of the distal humerus in elderly adults.	J Nippon Med Sch	44593	第89巻(1) P81-87	Original Article
63	Tabata Y, Shuhei Matsui S, Miyamoto M, Nakajima T, Majima T	整形外科・リウマチ外科	The Relationship between Perivertebral Venous Cement Embolism and Balloon Expansion Pressure in Balloon Kyphoplasty	JMA Journal.	44470	第4巻(4) P367-373	Original Article
64	Iizawa N, Oshima Y, Kataoka T, Watanabe H, Majima T, Takai S	整形外科・リウマチ外科	Relationship between severity of varus osteoarthritis of the knee and contracture of medial structures	J Nippon Med Sch	44593	第89巻(1) P108-113	Original Article
65	Ono K, Ohmori K, Yoneyama R, Matsushige O, Majima T	整形外科・リウマチ外科	Recurrence after full-endoscopic lumbar discectomy (interlaminar approach).	J Clinical Medicine	44866	第11巻(3) P748	Original Article
66	Iizawa N, Sonoki K, Obara Y, Kataoka T, Majima T	整形外科・リウマチ外科	An Isolated Iliac Wing Stress Fracture in a Male Marathon Runner	JBJS Case Connect.	44287	doi: 10.2106/JBJS.CC.20.00541.	Case report
67	Kobayashi Shunsuke, Nagao Mototsugu, Fukuda Izumi 他	糖尿病・内分泌代謝内科	Multiple daily insulin injections ameliorate QT interval by lowering blood glucose levels in patients with type 2 diabetes	Therapeutic Advances in Endocrinology and Metabolism	2021年4月 (オンライン)	第12巻	Original Article
68	Ono Mayo, Fukuda Izumi, Soga Akimi 他	糖尿病・内分泌代謝内科	A survey of surgically resected pituitary incidentalomas and a comparison of the clinical features and surgical outcomes of non-functioning pituitary adenomas discovered incidentally versus symptomatically	Endocrine Journal	44317	第68巻 P561-571	Original Article
69	Nao Umei	外科系集中治療科	Hospital survival outcomes in acute respiratory distress syndrome patients receiving veno-venous extracorporeal membrane oxygenation for longer than 28 days: A retrospective study	Artificial Organs	44409	第45巻12号P1533-1542	Original Article
70	Masae Iwasaki	外科系集中治療科	Inhalational Anesthetics Inhibit Neuroglioma Cell Proliferation and Migration via miR-138, -210 and -335	International journal of molecular sciences	44287	第22巻9号P4355	Original Article
71	Noro Rintaro	呼吸器内科	Alpha-actinin-4 (ACTN4) gene amplification is a predictive biomarker for adjuvant chemotherapy with tegafur/uracil in stage I lung adenocarcinomas.	Cancer science	44440	113(3):1002-1009	Original Article
72	Atsumi Kenichiro	呼吸器内科	A Possible, Non-Invasive Method of Measuring Dynamic Lung Compliance in Patients with Interstitial Lung Disease Using Photoplethysmography	J Nippon Med Sch	44440	1;88(4):326-334	Original Article
73	Akihito Yamamoto, Shunji Suzuki	女性診療科・産科	Successful surgical treatment of a giant uterine leiomyoma: A case report.	International journal of surgery case reports	44470	18: 106416(オンライン)	Case report
74	Akihito Yamamoto, Seiryu Kamoi, Mariko Ikeda, et al.	女性診療科・産科	Effectiveness and Long-term Outcomes of Nerve-Sparing Radical Hysterectomy for Cervical Cancer.	Journal of Nippon Medical School	44501	88(5): 386-397	Original Article
75	Akihito Yamamoto, Seiryu Kamoi, Shunji Suzuki	女性診療科・産科	Spontaneous rupture of the ovarian vein in association with nutcracker syndrome: a case report.	Journal of medical case reports	44531	15(1): 601(オンライン)	Case report
76	Akihito Yamamoto, Seiryu Kamoi, Shigeru Matsuda et al.	女性診療科・産科	Efficacy and Adverse Events of Carboplatin Desensitisation Therapy for Gynaecological Cancer: A Retrospective Study	Medicines	44621	30;9(4):26(オンライン)	Original Article
77	Pawankar R, Thong BY, Tiongco-Recto M, et al.	小児科	Asia-Pacific perspectives on the COVID-19 pandemic.	Allergy	44317	76(9):2998-3001	Letter

78	Pawankar R, Thong BY, Wang JY.	小児科	a new era of allergy and clinical immunology in digital	Asia Pac Allergy	44562	12(1):e5-e8	Others
79	Narazaki H, Watanabe M, Migita M et al.	小児科	Statistical Evaluation of the First Year of a Neonatal Intensive Care Unit Established in a Medical School Hospital	J Nippon Med Sch	44440	88(4):283-290	Original Article
80	Yanai E, Yamanishi S, Igarashi T et al.	小児科	A case of IgA vasculitis with necrotizing arteritis in a 13-year-old girl	CEN	44501	10(4):608-613	Case report
81	Igarashi T, Takeda S, Igarashi T et al.	小児科	Role of Pediatric Departments in Community Hospitals in Countermeasures against Measles Epidemics at Olympic Games Sites	J Nippon Med Sch	44348	88(3):220-227	Original Article
82	Yoshino M, Ueda T, Takada H et al.	小児科	Post-Traumatic Stress Disorder among Children Involved in Traffic Accidents and Their Parents in Japan	J Nippon Med Sch	44621	89(1):47-55	Original Article
83	Yoshida K, Fujita A, Narazaki H et al.	小児科	Drug resistance to nelarabine in leukemia cell lines might be caused by reduced expression of deoxycytidine kinase through epigenetic mechanisms	Cancer Chemother Pharmacol	44562	89(1):83-91	Original Article
84	Tsuno K, Fukazawa R, Kiriya T et al.	小児科	Peripheral Coronary Artery Circulatory Dysfunction in Remote Stage Kawasaki Disease Patients Detected by Adenosine Stress 13N-Ammonia Myocardial Perfusion Positron Emission Tomography	J Clin Med	44593	11(4):1134	Original Article
85	Watanabe M, Fukazawa R, Kamisago M et al.	小児科	Prognosis of Coronary Artery Bypass Grafting in Preschool-Aged Patients with Myocardial Ischemia Due to Giant Aneurysm of Kawasaki Disease	J Clin Med	44621	11(5):1421	Original Article
86	Igarashi T, Takei S, Tanaka E et al.	小児科	Pediatric Dual-Energy X-Ray Absorptiometry in Japan: A Proposal for Shared Access to Equipment	J Nippon Med Sch	44440	88(4):296-300	Original Article
87	Matsumoto T, Yanagihara T, Yoshizaki K et al.	小児科	Renal Biopsy-induced Hematoma and Infection in a Patient with Asymptomatic May-Hegglin Anomaly	J Nippon Med Sch	44531	88(6):579-584	Case report
88	Shima Y, Kumasaka S, Negishi Y	小児科	Sustained sterile inflammation is related to pulmonary morbidities in premature infants	J Matern Fetal Neonatal Med	44378	15:1-5	Original Article
89	Takeshi Yamada, Endo H, Hasegawa H	消化器外科	Risk of emergency surgery for complicated appendicitis: Japanese nationwide study	Ann Gastroenterol Surg	44317	5(2) 236-242	Original Article
90	Kanaka S, Kawano Y, Yokomuro S	消化器外科	Hemochromatosis and Hepatocellular Carcinoma Secondary to Immunoglobulin G4-Related Disease with Hepatopathy: A Case Report	J Nippon Med Sch.	44317	88(2): 138-144	Case Report
91	Akimasa Matsuda, Takeshi Yamada, Goro Takahashi	消化器外科	Does the diameter of colonic stent influence the outcomes in bridge-to-surgery patients with malignant large bowel obstruction?	Surgery Today	44348	51(6) :986-993	Original Article
92	Kanaka S, Aoki Y, Yoshioka Masato	消化器外科	Short-term Outcomes of Liver Resection in Patients With Hemodialysis	In Vivo	44378	35(4):2465-2468	Original Article
93	Hiroichi Sonoda, Takeshi Yamada, Akimasa Matsuda	消化器外科	Elevated serum carcinoembryonic antigen level after curative surgery is a prognostic biomarker of stage II-III colorectal cancer	Eur J Surg Oncol	44501	47(11):2880-2887	Original Article
94	Nobuyuki Sakurazawa, Arai H, Yasuda T	消化器外科	Endoscopic detorsion for early postoperative Roux limb torsion after laparoscopic gastrectomy: A case report and literature review	J Nippon Med Sch	44531	88(6):544-550	Case Report
95	Ohta R, Takeshi Yamada, Hiroichi Sonoda	消化器外科	Detection of KRAS mutations in circulating tumour DNA from plasma and urine of patients with colorectal cancer	Eur J Surg Oncol	44531	47(12):3151-3156	Original Article
96	Tomoko Kurita, Taruno Kanae, Seigo Nakamura, et al.	乳腺科	Magnetically Guided Localization Using a Guiding-Marker System® and a Handheld Magnetic Probe for Nonpalpable Breast Lesions: A Multicenter Feasibility Study in Japan	Cancers	44348	13.2923(online)	Original Article

計96件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 研究の種類、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成ならびに申請時の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 ・ 委員会の構成、審議事項、利益相反マネジメントのプロセス、 ・ 臨床研究に係る利益相反の審議に関する倫理委員会との関係 ・ 利益相反マネジメントの管理の方法等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 当院倫理委員会および倫理委員会への申請について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。平成30年度より、新たな専門医制度が始まり、基本領域学会及び日本専門医機構の審査・認定を受けた専門研修プログラムに基づき、各領域で専門医取得や大学院進学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の四つの付属病院において、それぞれの特色を生かした診療体制の中でローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応えうる人材の育成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	198.82	人
-------------	--------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岩崎 雄樹	循環器内科	部長	26 年	
木村 和美	脳神経内科	部長	36 年	
酒井 行直	腎臓内科	部長	30 年	
山口 博樹	血液内科	部長	29 年	
岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	部長	36 年	
岩部 真人	内分泌代謝内科	部長	19 年	
清家 正博	呼吸器内科	部長	30 年	
安武 正弘	老年内科	部長	38 年	
館野 周	精神科	部長	28 年	
伊藤 保彦	小児科	部長	39 年	
佐伯 秀久	皮膚科	部長	31 年	
岸川 洋昭	麻酔科	部長	27 年	
林 宏光	放射線科	部長	35 年	
吉田 寛	消化器外科	部長	36 年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	33 年	
石井 庸介	心臓血管外科	部長	29 年	
白田 実男	呼吸器外科	部長	28 年	
森田 明夫	脳神経外科	部長	40 年	
高橋 浩	眼科	部長	39 年	
大久保 公裕	耳鼻咽喉科	部長	38 年	
桑原 慶充	産婦人科	部長	25 年	
近藤 幸尋	泌尿器科	部長	37 年	
眞島 任史	整形外科	部長	38 年	
小川 令	形成外科	部長	23 年	
横堀 将司	救急科	部長	23 年	
桑名 正隆	リウマチ科	部長	34 年	

廣田 薫	漢方内科	部長	33	年
大橋 隆治	病理診断科	部長	30	年
久野 彰子	歯科	部長	29	年
木村 和美	リハビリテーション科	部長	36	年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>①医療機器安全管理研修会「除細動器」</p> <p>②看護関連研修会</p> <p>1) 口腔ケア 2) 集中治療 3) 糖尿病治療・看護 4) 脳卒中看護 5) リエゾン精神 6) が ん診療・看護 7) 創傷ケア 8) 患者家族支援 9) 循環器治療 10) 摂食嚥下 11) 整形外科の 術後管理 12) 心臓血管治療等</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①2021年12月9日～2022年1月9日 Webにて開催 1回</p> <p>②2021年4月1日～2022年3月末日 Webにて開催 計31回</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①1,549名</p> <p>②1,083名</p>
業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>医療機器安全管理研修会「医療機器の安全な取り扱い」</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>2021年12月15日～2022年1月15日 Webにて開催 1回</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>1,601名</p>

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

看護関連研修会

- 1) 口腔ケア 2) 集中治療 3) 糖尿病治療・看護 4) 脳卒中看護 5) リエゾン精神
6) がん診療・看護 7) 創傷ケア 8) 患者家族支援 9) 循環器治療 10) 摂食嚥下
11) 整形外科の術後管理 12) 心臓血管治療等

・研修の期間・実施回数

2021年4月1日～2022年3月末日 Webにて開催 計31回

・研修の参加人数

259名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 汲田 伸一郎
管理担当者氏名	各部署長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	電子カルテ内サーバー
		処方せん	電子カルテ内サーバー
		手術記録	電子カルテ内サーバー
		看護記録	電子カルテ内サーバー
		検査所見記録	電子カルテ内サーバー
		エックス線写真	電子カルテ内サーバー
		紹介状	電子カルテ内サーバー
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内サーバー
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	各部署
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内サーバー
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	ファイル、PCによる保存管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	法人本部総務部、庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	庶務課
		職員研修の実施状況	庶務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課
		管理者が有する権限に関する状況	法人本部総務部
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	院長 汲田 伸一郎
閲覧担当者氏名	庶務課 課長 樋口 憲二
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室
閲覧の手続の概要 閲覧についての書類を受取後、対応	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 2 件	
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 医療安全管理に関する基本的考え方 2. 医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項 3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 10. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 1. 医療の安全管理の総括に関する事 2. 医療安全管理指針及び医療安全マニュアルの策定及び変更に関する事 3. 重大な医療事故等に関する原因究明のための調査及び分析に関する事 4. 前号の分析結果を活用した医療事故等防止方策の立案及び実施ならびに従業者への周知に関する事 5. 医療事故等防止方策の実施状況の調査及び見直しに関する事 6. 死亡退院事例報告の実施状況の確認及び確認結果の院長への報告ならびに従業者への研修及び指導に関する事 7. 医療法（昭和23年法律第205号）第6条の11に規定する医療事故調査及び医療事故調査等支援団体に関する事 8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 10. その他医療安全管理に関する事 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ① 令和3年度 第1回 医療安全管理研修講演会（eラーニング形式） 開催期間：令和3年9月1日～30日 演題：肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）の予防 講師：エルゼピア・ジャパン株式会社 ② 令和3年度 第2回 医療安全管理研修講演会（eラーニング形式） 開催期間：令和4年1月17日～2月16日 演題：二次救命処置（ALS） 講師：エルゼピア・ジャパン株式会社 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医療安全管理集中管理システム（セーフマスター）での管理 2. 医療安全管理に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正 3. 医療安全管理の手引きの改正・配布 4. リスクマネージャ会議（月1回）における改善方策周知 5. 院内リスクアセスメント（安全情報等）の周知確認登録 （電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト、院内FAX等） 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： ・ せんだぎるーるぶっく（院内作成の医療安全に関するハンドブック。年1回改訂）「当院の院内感染対策」項として提示。 ・ 病院感染対策マニュアル（電子カルテ内ポータルサイトに掲載。随時改訂）を整備。 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <p>病院感染対策委員会・感染管理マネージャー会議として、月1回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定例報告：疫学月報、ICT活動報告、AST活動報告、栄養科報告、感染症流行状況報告、など ・ その他：COVID-19院内状況報告、耐性菌院内発生報告、感染症法関連通知等報告、など 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ・ 院内感染対策研修講演会（年3回）：全従業員を対象。ポストテストあり。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回：「新興・再興感染症への対応及び感染対策（COVID-19）その他流行性ウイルス疾患時の対応 各種個人防護具の適切な使用方法と間違い例」 2021年4月14日から2021年5月13日まで（eラーニングシステム掲載による開催） 2. 第2回：「抗菌薬適正使用と院内感染対策 ～大事に使おう抗菌薬～」 2021年7月17日から2021年8月16日まで（eラーニングシステム掲載による開催） 3. 第3回：「ワクチンによる感染症への備え インフルエンザと新型コロナウイルス」 2021年10月18日から2021年11月17日まで（eラーニングシステム掲載による開催） <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症レクチャー：内科専攻医制度委員会、臨床研修センターと協働。ポストテストあり。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回：「手術部位感染対策 医療の質向上と抗菌薬適正使用」 2021年11月10日開催（WEB形式） 2. 第2回：「fever workupってなんだ！ ～発熱患者へのアプローチ～」 2021年12月8日開催（WEB形式） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>院内で感染症発生時には事象毎に発生報告書を作成、それをもとに、院長報告、委員会報告を実施している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症発生報告（患者、医療スタッフ） ・ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）発生報告 ・ 流行性角結膜炎（EKC）発生事象報告と今後の対応について ・ 手足口病発症に関する報告 	

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 最近の他施設での医薬品関連の事故、事件の紹介。 当院で発生した薬剤関連のインシデント報告及びインシデント発生を未然に防止するための医薬品取り扱いに関する留意点。薬剤部からの医薬品安全性情報、日本医療評価機構からの医薬品に関する安全性情報 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 年2回(3・9月)薬剤部、病棟、外来、医局長、薬事委員に対し、その実施状況についてチェックリストを用いて確認。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 未承認等の医薬品の使用事例はない。 適応外使用については、進行期HER2遺伝子陽性非小細胞肺癌に対するエンハーツの適応外使用例があった、当院倫理審査委員会にて審査し承認を受け、適切なI.C.が行われたうえで使用されていることを確認した。3ヶ月に一度、投与後のモニタリングを行い、適正に使用されていることを確認した。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 薬品情報室が厚生労働省HP、PMDA、メーカー各社HP、製造販売業者HP、学術誌等で情報を収集している。 得られた情報のうち必要と判断されたものについては医薬品を取り扱う職員を対象に以下の方法にて周知している。 <ul style="list-style-type: none"> 部長会、医長会(院内会議)において説明。電子カルテの掲示板機能の活用。 医薬品情報(毎月)、薬剤部ニュース(随時)を、各部署に配布。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 65回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 特定機能病院における定期研修 2021年4月13日 血液浄化（研修医対象） 2021年5月18日 人工呼吸器（研修医対象） 2021年5月 ME機器【人工呼吸器、除細動器など】（新人看護師対象） DVD配布 その他 14回</p> <p>2) 新しい医療機器の導入時の研修 2021年4月2日 人工呼吸器BiPAP autoSV（臨床工学技士対象） 2021年4月6日 人工呼吸器ハミルトンT1（看護師対象） 2021年4月20日 人工呼吸器ハミルトンT1（医師対象） その他 23回</p> <p>3) その他必要に応じた研修 2021年4月27日 IABPカテーテル TRANS-RAY-PLUS（臨床工学技士対象） 2021年5月25日 人工呼吸器vivo45（臨床工学技士対象） 2021年6月25日 シリンジポンプCSP-120（看護師対象） その他 17回</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>〈人工心肺〉9月に定期点検を実施 〈補助循環装置〉5月～12月に各装置の定期点検を実施 〈血液浄化装置〉4月～2月に各装置の定期点検を実施 〈除細動器〉5月、8月、11月、2月に定期点検を実施 〈閉鎖式保育器〉4月、7月、10月、1月に定期点検を実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDA、JCQHC等から発信される医療安全情報、医療機器製造および販売業者より発信される安全使用のための情報を収集し保管している。また、周知が必要な内容については院内へのME部新聞発行による全体周知、および医療機器の安全管理研修で周知と報告をしている。医療機器の使用中のトラブルについても集計し院内勉強会などで周知をしている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を統括。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>医療安全管理委員会の下部組織として、医薬品安全管理委員会を設置し、医薬品安全管理責任者（薬剤部部長）が委員長を務めている。委員には医療安全管理者も含まれており、院内の医薬品に係る安全使用と事故防止及び適切な管理を行うため必要な対応を行っている。尚、委員会での決議は随時、医薬品安全管理責任者により医療安全管理委員会に報告を行っている。</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成、従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の業務手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品等の使用状況の把握等を適切に実施するための担当者を薬剤部病棟部門長とさだめ、病棟薬剤師が実務を担当している。</p> <p>未承認新規医薬品等の使用予定の情報を入手した際は、担当医師に未承認新規医薬品等を用いた医療の実施に関する院内での手続きについて情報提供をしている。</p> <p>適応外使用、禁忌薬などに関しては、病棟業務および調剤時に使用情報を収集し、未承認新規医薬品等を用いた医療の実施同様、担当医師に院内での手続きについて情報提供している。</p> <p>使用に至った際はモニタリングを行い、適宜、医薬品安全管理責任者より院長に報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師伊勢雄也） （所属：薬剤部，職種 薬剤師岸田悦子）</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師林太祐 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームド・コンセントガイドラインに基づき監査項目を設置し、定期的に質的・量的監査を実施している。遵守率の低い項目に対し、インフォームド・コンセント委員会で周知し改善につなげている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：入院の説明、初期評価、術前術後説明、入院診療計画書など、43項目に対して量的点検を実施。また、診療録監査表を用いて、退院サマリーの記載、手術記録の記載、侵襲的な治療・処置に対する説明と同意の記載、診療記録の毎日記載など48項目に対して質的点検を実施。点検結果を、院長報告・診療録管理室委員会等での報告、当該診療科・担当医師へフィードバックし指導を実施している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（16）名、専任（3）名、兼任（14）名 うち医師：専従（2）名、専任（2）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（5）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理のための指針の整備に関すること 2. 医療に係る安全管理のための委員会の開催に関すること 3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施に関すること 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の策定に関すること 5. その他医療に係る安全管理のための事務一般に関すること 6. 院内の環境・設備ならびに職員の接遇に関する意見や苦情の対応に関すること 7. 医療に係る安全管理に関する相談の対応に関すること 8. 医療事故の渉外に関すること 9. 個人情報の適正管理に関すること 10. 個人情報の紛失・盗難・漏洩の防止に関すること 11. 個人情報の紛失・盗難・漏洩時の対応に関すること <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェックなど）
 2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
 3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 1. 未承認新規（適応外は対象外）医薬品・医療機器等を用いた医療の申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェックなど）
 2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
 3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

<ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無)
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 516 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 434 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導などを行っている。
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：愛知医科大学病院) ・無) ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：愛知医科大学病院) ・無) ・技術的助言の実施状況 書面のみで実施。双方の自己評価票をチェックし、確認事項・質問事項を提出し回答 (一往復) する方法をとったため、助言を頂くまでには至らなかった。
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 (設置状況等) <ul style="list-style-type: none"> ・窓口の名称：患者相談窓口 ・患者相談窓口の設置：平成 15 年 4 月 1 日 ・責任者の氏名及び職種：医療安全管理部 部長 (医師) ・対応部署： 患者支援センター ・ 医療安全管理部 患者相談室 ・受付時間： 月～金 8：30～16：30 土 8：30～15：30 ・規約の整備状況：日本医科大学付属病院 患者相談窓口運営規則 (平成 17 年 4 月 1 日施行) (活動状況) <ul style="list-style-type: none"> ・患者への明示方法：院内 3 ヶ所 他に明示及び明記している。 (本館 2 階正面玄関入口・東館 1 階玄関入口・本館 1 階患者支援センター入口・入院案内パンフレット・ホームページ) ・窓口以外の苦情相談の受付 電話相談・投書箱設置 (18 ヶ所)

- ・相談により患者等が不利益を受けないようにプライバシーに留意し、個室対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

診療録管理、高難度新規医療技術を用いた医療の提供について

[実施時期]

令和4年1月18日

診療録管理室 室長 八島 正明

医療安全管理部 部長 石井 庸介

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 管理者

- ① 日本医療機能評価機構 2021年度特定機能病院管理者研修
2022年1月19日

2. 医療安全管理責任者

- ① 日本医療機能評価機構 2021年度特定機能病院管理者研修
2021年12月23日

3. 医薬品安全管理責任者

- ① 日本医療機能評価機構 2021年度特定機能病院管理者研修
2021年11月22日

- ② 日本医療機能評価機構 2021年度第1回薬剤安全セミナー
2021年10月16日

4. 医療機器安全管理責任者

- ① 日本医療機能評価機構 2021年度特定機能病院管理者研修
2022年2月14日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 一般病院2 2016年6月3日認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページに認定されたことは掲載しているが、結果及び改善のために講ずべき内容は掲載しておらず公表はしていない

・評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 日本医科大学付属病院長選任規程 令和元年11月1日施行 任期、選定の基準、候補者選考の事由及び時期、選考委員会の設置、構成 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ホームページに掲載 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
鈴木 秀典	学校法人日本医科大学 常務理事	○	理事会において選任された理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
弦間 昭彦	学校法人日本医科大学 常務理事		理事会において選任された理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
清水 一政	学校法人日本医科大学 理事		理事会において選任された理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
松本 洋一郎	東京理科大学 学長		理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
三木 保	東京医科大学病院 院長		理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項 その他病院の管理運営に関する事項 人事異動報告、医療収入報告、医薬品情報報告、各種委員会における審議内容の報告 その他院長が必要と認める事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 各部署長が出席し、審議内容を職員へ周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
汲田 伸一郎	○	医師	院長
近藤 幸尋		医師	副院長
吉田 寛		医師	副院長
石井 庸介		医師	副院長
岩切 勝彦		医師	副院長
鈴木 智恵子		看護師	副院長
安武 正弘		医師	総合診療科部長
岩崎 雄樹		医師	循環器内科部長
木村 和美		医師	脳神経内科部長
酒井 行直		医師	腎臓内科部長
桑名 正隆		医師	リウマチ・膠原病内科部長
山口 博樹		医師	血液内科部長
岩部 真人		医師	糖尿病・内分泌代謝内科部長
清家 正博		医師	呼吸器内科部長
笠原 寿郎		医師	化学療法科部長
館野 周		医師	精神神経科部長
伊藤 保彦		医師	小児科部長
佐伯 秀久		医師	皮膚科部長
岸川 洋昭		医師	麻酔科・ペインクリニック部長
鈴木 規仁		医師	緩和ケア科部長
林 宏光		医師	放射線科部長
前林 勝也		医師	放射線治療科部長
武井 寛幸		医師	乳腺科部長

杉谷 巖		医師	内分泌外科部長
白田 実男		医師	呼吸器外科部長
森田 明夫		医師	脳神経外科部長
高橋 浩		医師	眼科部長
大久保 公裕		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
桑原 慶充		医師	女性診療科・産科部長
眞島 任史		医師	整形外科・リウマチ外科部長
小川 令		医師	形成外科・美容外科・再建外科部長
新井 正徳		医師	救急診療科部長
横堀 将司		医師	救命救急科部長
廣田 薫		医師	東洋医学科部長
山田 岳史		医師	遺伝診療科部長
眞々田 裕宏		医師	がん診療科部長
山本 剛		医師	心臓血管集中治療科部長
大橋 隆治		医師	病理診断科部長
間瀬 大司		医師	外科系集中治療科部長
青柳 陽一郎		医師	リハビリテーション科部長
久野 彰子		歯科医師	口腔科（周術期）部長
寺崎 泰弘		医師	病理部部長
柏木 哲也		医師	血液浄化療法センターセンター長
後藤 修		医師	内視鏡センターセンター長
遠藤 康実		医師	臨床検査部部長
宮本 正章		医師	高気圧酸素治療室室長
石川 真士		医師	ME 部部長
平川 経晃		医師	輸血部部長
大塚 俊昭		医師	臨床研究総合センターセンター長
八島 正明		医師	保険診療指導部部長
平間 章郎		医師	腎クリニック所長
藤田 和恵		医師	医療安全管理部感染制御室室長
伊勢 雄也		薬剤師	薬剤部部長
山本 臣生		事務職員	事務部部長
加島 直人		事務職員	事務部副部長
樋口 憲二		事務職員	事務部庶務課長
瀬田 圭一		事務職員	事務部医事課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
管理者は、病院の業務を統括し、所属職員を指揮監督すると共に、病院全般の円滑な運営に当たる。
予算承認について、支出に拘わる案件の予算承認限度額を定める。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
【職名】副院長
手術室運営に関すること、収支改善に関すること、医療経費削減に関すること、医療連携に関すること、医師の負担軽減に関すること、臨床研修センター運営に関すること、医療安全・感染対策に関すること、経営戦略に関すること、看護部門に関すること、患者安全管理に関すること、病棟稼働率・平均在院日数等の効率化に関すること

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
日本私立医科大学協会病院事務長会議、病院庶務研究会等に出席している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>(2) 必要に応じ、理事長又は院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。</p> <p>(3) 上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>学校法人のホームページへ掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・無	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・無	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・無	2
櫻田 晋太郎	弁護士		利害関係のない学識経験者	有・無	1
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

定期的（年1回）に管理者による病院の管理状況を確認する。

必要に応じて臨時に確認を実施する

・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ ）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<p>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況</p> <p style="padding-left: 40px;">原則として毎月1回理事長が招集し、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。</p> <p>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</p> <p>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年11回 ）</p> <p>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</p> <p>・ 公表の方法</p>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 <p>ホームページを用いて公益通報・相談窓口のメールアドレス等の連絡先を恒常的に職員に対して周知。</p>